



笑顔と元気があふれる日本語教室 ～呉市のまちづくりに取り組むひまわり 21～

ひまわり 21 代表 伊藤 美智代

地域日本語教室は「仲間づくり」「まちづくり」の活動

広島県呉市に日本語教室が開かれたのは1993年でした。呉市が開設し市民が活動する、手さぐりの市民協働事業が始まったのです。市政だよりのボランティア募集の記事を見て参加した、知識も技術も持たない私達は、毎回の教室活動を進めるだけで精一杯でしたが、次第に視野が広がり様々な活動を展開していきました。そして2002年に任意団体「ひまわり21」を設立し、より幅広い活動に取り組むようになりました。呉市との協働事業なので、安心して学習者と地域にとって必要な活動を進めています。

活動の目的は「さまざまな文化を持つ人々が相互認識と理解を深め、共に生きる地域社会の実現を目指す」ことです。地域日本語教室は、学びと交流、そして多文化共生のまちづくりを推進していく拠点だと考えて取り組んでいます。日本語教室は、参加者全員が自主的に学び合い支え合う場です。参加する全ての人々にとって心地よい場所を作り、理解し合いながらコミュニケーション力を高め、そして、この町で共に幸せに暮らしていきたいと願って活動しています。

楽しい!が一番!

ひまわり21は、土曜日夜の「日本語教室《呉》」と水曜日午前の「せかいの花」、2つの地域日本語教室を運営しています。現在ボランティアスタッフは37人で、その中に元学習者も2人います。年間約1,300人の市民ボランティアが参加しています。呉市が毎年開いている「日本語ボランティア養成講座」を受講して活動に加わる人が多いようです。また、全ての人に開かれているので見学者がとても多いです。

活動している広市民センターは、外国人住民が多く住

む呉市東部にあり、年間約2,000人の学習者が参加しています。多様な背景と目的を持って参加する彼らは、ここで出会い、日本語を学んだり様々な活動をしたりしながら、友達を作り、夢を叶え、自分の世界を拓けていきます。その「楽しさ」が活動を進める原動力となっています。



日本語教室って、どんなところ?

地域住民・団体・機関との連携が不可欠

「ひまわり21」の活動の柱として地域活動があります。まず、日ごろの教室活動で地域に関心を向ける日本語活動を取り入れる。そして活動の様子をパネル展示やSNS・講座などで知らせる。さらに、料理教室・盆踊り体験会・ボランティア活動など、地域の人々と理解を深めあう楽しい活動を開催する。こうした地域の人々と出会い繋がる活動を重ねていくと、地域の人々が私たちの活動や外国人住民に関心を持つようになったり、時には

支えてくれる市民が増えていきます。

活動企画を立てる時、誰（どこ）と連携すればより意義深い活動になるかを考えます。連携活動は時間がかかり、時には計画の見直しが必要になりますが、多くの人にとって有意義で展開の可能性も見いだせます。

2020年度は、定期的に実施してきたさまざまなイベントがコロナの影響もあり実施できませんでしたが、担当の地域協働課をはじめとする市役所、小・中学校、ひろしま国際センター、広島県などと連携して新たな取り



「日本語ネットワーク 住みつづけて呉」の事業に、ママさん学習者たちが協力



2020年11月25日「せかいの花」が教室丸ごと中学校へ！5班に分かれて、食文化をテーマに文化紹介



2021年2月13日「日本語教室《呉》」“おしゃべりサロン”ひろしま国際センターとの協働実践

組みができました。なかでも、学習者が小・中学校の「学校生活ガイドブック」作成に協力してくれたこと、教室近くの中学校からの提案で計画的に年間5回授業に参加したことは、素晴らしい体験になりました。

これから

2020年は3か月も教室が開けませんでした。また2021年も5月中旬から会えない日々が続きました。2020年度の始めにオンラインでの活動を提案したものの、なかなか広がりませんでした。私達の団体は高齢のスタッフが多いので、ゆっくり丁寧な研修を重ね、2021年度になってやっと全体として取り組むことができるようになりました。

これからは日本語教室に来るのが困難な人のために、非常時だけでなく通常の教室開催時にオンライン学習の場を作ります。また昨年度発表の場として開いたYouTubeチャンネルで、通常の活動を配信していきます。そして、日本語教室で輝いている笑顔をも、町全体に広げたいと考えています。



教室閉鎖中の2021年6月19日Zoomで「オンラインおしゃべり会」



2021年3月24日「せかいの花」呉市広報番組撮影を終えて <https://tv.rcc.jp/kurewan/hoso/entry-21126.html>